

一貫教育制度の具体的内容

教育内容・指導方法の詳細	
学年 ブロック	<p>各教科9年間の系統性を図った教育を展開することで、基礎学力の確実な定着を目指す。また、9年間を子どもの発達段階に応じて、4・5制や4・3・2制などに分け、基礎基本の確実な定着を図る時期と応用力、発展力などを身に付ける時期など、学年や時期により学習内容の重点化を図る。</p> <p>9年間の系統性が比較的強く、生きる力の根底としての基礎基本となる教科である国語、算数・数学において、全市共通の教育課程を編成し、教育内容の系統化による基礎学力の定着を図る。また、学校教育スタンダードの具体的な姿の実現を目指し、朝の時間、放課後等を効果的に利用して漢字・計算などの定着に努め、全ての児童生徒が「できた」という喜びが味わえるようにし、学習意欲を高めるとともに、学習習慣を身に付ける。</p> <p>休み時間、給食等様々な学校教育活動と関連を図った体育科の授業により、健康に対する自己管理能力育成と体力向上を図る。</p> <p>現行において週1時間実施されている道徳の時間の充実と、この時間と関連を図る体験活動を位置づけた道徳教育により、9年間を通して宇都宮市民として求められる規範意識や公共心などの道徳性を育む。また、様々な学年の児童生徒や地域人材等との交流する場を位置付け、道徳的实践ができるようにする。</p> <p>今後の社会を心豊かに生きるため、日本語や英語などによる表現力の育成を図る「会話科」や時と場に応じた英語を活用できる「英会話科」の授業により、コミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>職業人として必要な職業観、勤労観を育むことができるよう、現在中学校2年生で実施されている「宮っ子チャレンジ」の成果等を生かし、総合的な学習や社会科など各教科等における体験活動を通してキャリア教育を推進する。</p> <p>地域クラブ活動をたくましく生きる体力や豊かな感性を養うため、小学校高学年段階において中学校部活動との円滑な連携を図った地域クラブ活動を実施する。地域クラブ活動においては、地域の人材や外部指導者等の有効な活用を図り、系統的な活動が展開できるようにする。</p> <p>基礎学力の定着や子ども一人一人のよさや可能性の伸長を図ることができるよう、小学校において中学校教員が専門性を生かした授業と行ったり、中学校において小学校教員がITの授業など小中の定期的な授業交換を行うなどして、9年間を見通した適切な指導を推進する。</p> <p>子どもの基礎学力の確実な定着を目指すため、朝の学習の時間などを活用して、習熟度に応じた漢字、計算他、スキル学習等に継続的に取り組めるようにする。小中学校教員は、スキル学習の結果をきめ細かく検証し、一人一人の指導に生かす。</p> <p>子どもが自分自身のよさや可能性に気付き、それらを伸長することができるよう、小学校において積極的に教科内選択学習を取り入れることにより、選択のためのオリエンテーションや振り返りを充実させ、チェックシートなどの教材の工夫により、自分の学習を自己点検できるようにする。中学校の選択教科においては、小学校で培った選択能力をより一層高める。</p> <p>専門的な視点から多面的に子どものよさや可能性を見取り伸ばす「教科担任制」を、各小学校の実態に応じて柔軟に導入する。このためには、小学校教員も自らの専門性を磨き、9年間を見通した教科の目標や内容を系統的に分析するなど、自らの資質向上が必要となる。</p> <p>基礎学力の定着を目指し、児童生徒の発達段階や各教科の内容に応じて習熟度別学習を取り入れ、子ども一人一人に対応したきめ細かな指導を行う。小学校中学年の国語・算数、中学校の数学・英語において習熟度別学習を実施することで、全ての子どもにも、基礎学力の徹底を図る。</p> <p>高等学校との連携を図った高度で専門的な授業により、将来に対する夢や希望を育むとともに、子ども一人一人の学習や生活についての指導支援の方向性を明らかにする。</p> <p>小学校教員が中学校1年生の担任となり、学習・生活についての相談を行い、生徒の学校不適応などに対応する。</p> <p>中学校に複数の生徒指導担当教員を配置し、小学校への定期的派遣により、児童生徒の情報交換はもとより、小学校9年間を見通した十分な学校生活適応の観点から一人一人に応じた適切な指導を行う。また、Q-Uテストなどによる実態調査を最低年2回は行い、友人関係や児童生徒上の課題を的確に把握する。</p> <p>子どもの社会的自立を目指し、継続的によさや努力を認め合う教育を展開するため、小中学校の特別支援教育の充実はもとより、小中学校間の連携を充実できるよう、特別支援教育専任コーディネーターを中学校に配置する。</p> <p>子どもの心の悩みやいじめ、不登校に対応するため、現在、全中学校に配置されているSC（スクールカウンセラー）を小学校に配置する。</p> <p>小中学生の交流活動や縦割り活動等、異年齢交流活動を豊富に取り入れることで、社会性や思いやり、将来に対する夢と希望などを育む。</p> <p>学習態度や生活習慣の基礎基本を身に付けられるよう、生活科などにおいて幼保小の連携した授業を展開する。また、中学生が幼稚園や保育園において交流活動を行うなど、幼保中の連携授業も積極的に行う。幼保小中の教員は、学習活動や学校生活全般にわたる子どものよさや可能性を多面的に見取り、一人一人に対する指導支援の方向性を明らかにする。</p>
	<p>教育内容</p> <p>宮っ子心の教育</p> <p>「会話科」「英会話科」によるコミュニケーション力の育成</p> <p>宮っ子チャレンジ等体験を活用したキャリア教育</p> <p>地域クラブ活動の実施と地域クラブと連携した部活動の実施</p> <p>小中学校教員による小中交流授業</p> <p>ステップアップ学習</p> <p>教科内選択学習と選択教科</p> <p>教科担任制を中心とした授業</p> <p>習熟度別学習</p> <p>中高連携授業</p>
学習指導	<p>指導方法</p> <p>小学校教員による学習・生活相談</p> <p>小中一貫による児童生徒指導の充実（複数教員による指導）</p> <p>小中一貫による特別支援教育の充実（専任コーディネーター配置）</p> <p>SCによる悩み相談</p> <p>異年齢交流活動の推進</p> <p>幼保小中連携授業</p>
	<p>学校生活適応</p>